

空き家バンク事業を中核
とした、
移住交流促進事業

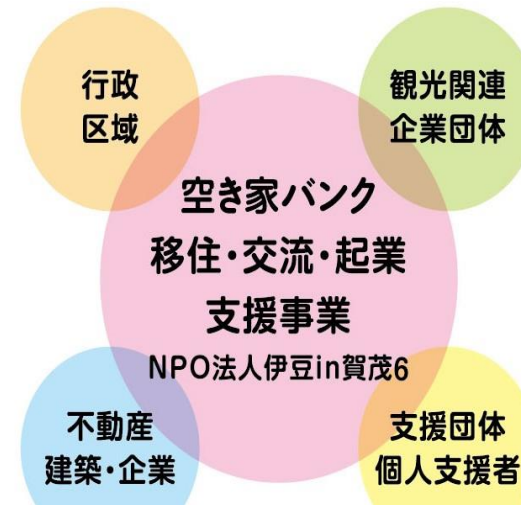
NPO法人伊豆in賀茂6

NPO法人伊豆in賀茂6

- 設立 2019年7月23日
- 従業員数 6名

- 経営理念

伊豆への移住促進を推しながら、静岡県、伊豆南部地域の地方自治体、支援団体、民間企業とも連携を取り、多くの支援者の協力を得て、まちづくり活動を行っています。



2019年9月~2021年2月までの
空き家バンク成果

- 空き家バンク登録件数 **47**件
- 利用者登録件数 **136**
- 成約件数 **30**件

●経済効果 **1億3415万円**
(契約ベース)

…①

●移住者 **51人**

●移住者による経済効果

(下田市の一人あたりの年間所得 240万円×51人)

1億2240万

空き家バンク 事業による経済効果

①+②=

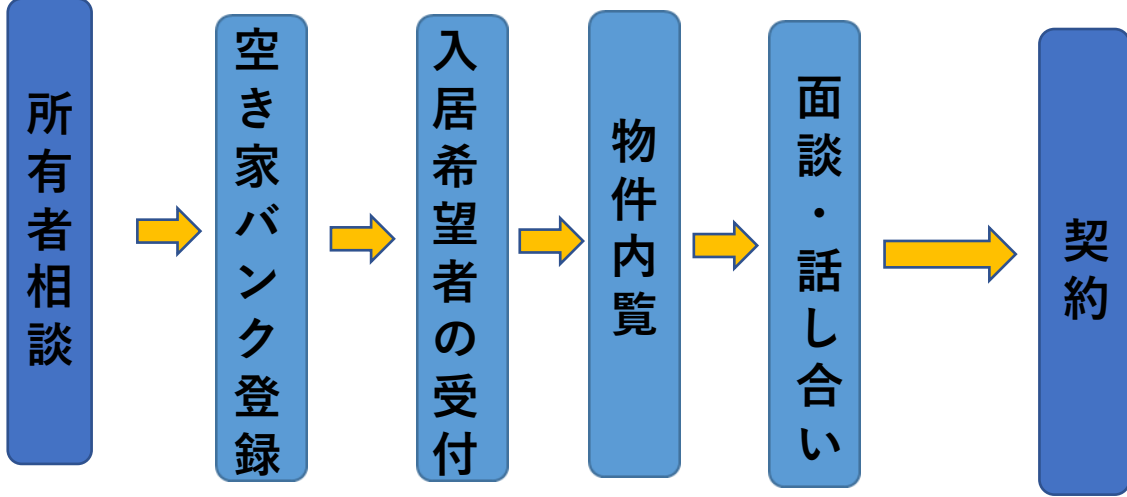
2億5655万円

空き家は 不動産物件 ではなかった！

- 全国に820万軒あると言われる空き家。しかしその多くが、不動産流通していない。
- 空き家は、後継者が見当たらないままになっている家のこと。
- 次世代の人に住んでもらうために、地元の住民とのアナログな理解促進と、信頼関係が不可欠。

NPO法人伊豆in賀茂6

・下田空き家バンク事業



・移住交流促進事業
(各種イベント関連)



アナログな地方と、都市部をデジタルで結ぶ

- アナログの関係強化と、ネットを駆使したデジタルで都市部との交流を深め、移住を促進する。
- アナログは、実は都市住民にとって地方の大きな魅力
- 都市からの流入を想定していなかったため、地方では、アナログと結ぶハブが見当たらない。
- NPOがアナログの地方と、都市部をデジタルで結び、ハブとなることで、新しい地方への流れを作る。

具体的な移住交流の流れを作る

移住体験施設
『見晴亭』

オープン

2021年6月予定

移住相談



空き家バンク



移住体験（交流体験）



関係人口の強化
（NPOの財務基盤強化）



次世代の流入人口

市民、企業、 団体、行政の 力を結集する

- 次世代のまちづくりには、次世代を担ってもらう都市部の人ができるだけでも必要。血縁に頼らない跡取りづくり。
- 空き家バンク事業を通して、具体的に居場所を提供する。
- そのためには、地元住民、企業、行政の協力が不可欠
- NPO法人がそのハブとなることで、アナログ的な地方と、都市部をデジタルでつなぎ、動かなくなってしまう地方に流動性をもたらし、新しい経済を生み出し、地方に躍動感を作り出す。